

## 次世代映像 「スーパーハイビジョン技術」

スーパーハイビジョンは現行のハイビジョンを超える「超高精細映像システム」として、2020年の試験放送を目指して現在も研究開発がすすまられています。

当社では、スーパーハイビジョンの研究に開発当初より携わり、様々な映像機器を開発、採用されております。プライベートショーでは、カラーグレーディング装置、同時記録再生装置等を実演いたします。

## メディアインテグレータ

デジタルスイッチャの枠を超えた新たなカテゴリを確立する「メディアインテグレータ MI-2100」を中心に、マルチ画面モニタでの屋内広告、映像監視、放送チャンネル確認など、様々なご使用イメージを体感して頂けます。さらに、iPadを使用した無線でのWebUI操作や、特殊機能のご紹介などシステムアップのご相談から操作感まで、充実した内容でお迎えいたします。また、4Kシステムでのスイッチング / Up・Down Converterとしての展示、スキャンコンバータSCシリーズは追加機能のご紹介を準備しています。

## ラウドネス監視

ラウドネスに関する新しいルールができ、ラウドネス監視が2012年10月1日から運用開始となります。デジタルマスター、バンクや編集室等でご使用頂けるラウドネスに対応したオーディオモニタ群の展示と、総務省の指針が進められている字幕放送サービスにおいては、波形、ベクトルといった信号品位の監視だけでなく、アンシラリー領域に重畳される字幕情報、民間制御信号やCMコード等といった、デジタル情報の監視・解析が必要となっており、そのニーズに合った字幕監視ラスタライザ等を展示します。

また、ARRI RAWに対応した非圧縮SSDレコーダやタイムコードMUX / DeMUX装置等の新製品も紹介いたします。

## MHL計測・解析

急速に普及が進むスマートフォンやタブレット業界で、現在注目されているMHL(Mobile High-definition Link)は、携帯端末と、TVやプロジェクタ、AVアンプやSTBを接続することにより、映像と音声の伝送や、携帯端末への給電が可能となる新しい規格です。

当社では、MHL対応機器の開発に欠かせないプロトコルアナライザを開発、アナライザの新しいラインアップとして追加しました。今回は、MHL対応プロトコルアナライザの他、DVIの後継インターフェースとして、PC業界で採用が著しいDisplayPort、デジタルAV機器の標準インターフェースであるHDMI対応のプロトコルアナライザも展示いたします。

## 信号発生器

現在、コンシューマエレクトロニクス業界は昨年の3Dに加え、4K×2Kの高精細ソリューションが一般化してきています。4K×2K対応の薄型テレビやプロジェクタ、AVアンプ、表示デバイスのご評価に最適なビデオ信号発生器をご紹介します。

HDMI、DisplayPortをはじめとする外部インターフェースやV-by-One HS、LVDSなどの内部インターフェースを各種サポートしています。

開発・設計から製造ライン、品質保証まで対応する幅広いラインナップを揃えており、目的に合った1台を選んでいただけます。

## 4K

当社の充実した4Kラインナップをご紹介します。

カメラ、レコーダ、モニタやJPEG2000コーデックなど新製品を中心に展出します。

新製品として、NABで発表しましたCanon EOS C500に対応したポータブルレコーダを、国内で初めてご紹介いたします。

4Kカメラは新たにマイクロフォーサーズのマウントに対応、レンズコントロール(ズーム、フォーカス、アリス)が可能となり、監視用途などへの対応が可能になりました。

4Kモニタも新たなラインナップを追加しましたので、多彩な4K製品をご覧ください。

## 4K医療

当社では4K×2K映像システムの応用として医療・病理分野向けに展開を進めています。

医療分野では、4K×2Kの超高解像度と広い撮影範囲を活かした術野撮影を基本に展開を行っており、研究および教育用映像の制作や、4K手術映像ライブ中継などを行っています。

病理分野では細胞解析分野での利用を展開しております。

株式会社ニコン様の生物用顕微鏡に4K×2Kカメラと4K×2Kモニタを接続し、顕微鏡映像をリアルタイムで、超高精細かつ広範囲に観察できる新たな提案を始めております。

プライベートショーでは実機でのデモ展示を行いますので、是非ご覧ください。

## ISDB-Tmm

今年4月からISDB-Tmm方式の新しいサービスが始まりました。

当社が開発しましたISDB-Tmm関連の製品を展示いたします。

ストリームを監視・解析ができるTSアナライザや、IPデータをTSパケットにカプセル化することができるIPエンキャプスレータ、検証用のテストストリーム作成ツールなど、放送局様から受信端末のメーカ様まで、幅広くご利用頂けるソリューションをご紹介します。

また、中継素材伝送用に特化したTSマルチプレクサの新機種や、館内自主放送用の変調器の新機種も展示いたします。

## 1080EVF

デジタル映像制作機器の高解像度化が進み、4K撮影が可能なカメラも次々と登場していますが、電子ビューファインダー(EVF)の解像度はQHD(960×540)やSXGA(1280×720)止まりで、より高解像度のEVFに対する要求が高まってきております。

当社では、画質に定評のあるLCOSを用いた、世界初のフルHD EVFを開発いたしました。その実力をデモ展示の場で是非ご確認ください。

## 4KCG

4K・8Kなどの超高解像度映像システムで、CG(2D・3D/VR)を表示できたらどんな世界が実現できるでしょうか？

CGは解像度に比例して制作負荷とマシン負荷が増大します。4K×2KはHDの4倍、8K×4Kは16倍の解像度があり、扱いはまだまだ簡単とはいえません。

当社では、4K×2K映像システムを世界で始めて実用化した経験を活かし、CG分野で専用マシン・周辺装置の開発を計画しています。4K×2K映像システムを使った4KCG開発環境を用意し、多くの制作会社・アーティスト・学生の皆様と連携し、超高解像度CGの実用化にむけた活動を始める予定です。

今回は4K×2K環境での3DCGゲーム開発環境などをデモいたします。